

基本練習問題 24-2

<解答>

(1)形態別分類に基づいて記入する方法 (2)直接費と間接費に分類して記入する方法

<u>製造原価報告書</u>		<u>製造原価報告書</u>	
I 材料費	339,800	I 直接材料費	339,800
II 労務費	568,200	II 直接労務費	568,200
III 経費		III 直接経費	85,000
1. 外注加工賃	85,000	IV 製造間接費	<u>178,000</u>
2. 減価償却費	<u>178,000</u>	合計	1,171,000
合計	1,171,000	製造間接費配賦差異	2,000
製造間接費配賦差異	2,000	当期製造費用	1,173,000
当期製造費用	1,173,000	期首仕掛品棚卸高	<u>101,000</u>
期首仕掛品棚卸高	<u>101,000</u>	合計	1,274,000
合計	1,274,000	期末仕掛品棚卸高	<u>94,000</u>
期末仕掛品棚卸高	<u>94,000</u>	当期製品製造原価	<u><u>1,180,000</u></u>
当期製品製造原価	<u><u>1,180,000</u></u>		

【解説】

材料費（直接材料費）と労務費（直接労務費）は資料①と②より次のように計算する。

材料費：72,300 + 334,600 - 67,100 = 339,800 円

労務費：566,700 + 191,400 - 189,900 = 568,200 円

製造間接費配賦差異は予定配賦額 180,000 > 実際発生額 178,000 だから 2,000 円の貸方差異である。ここで、製造原価報告書では実際発生額を記入するので減価償却費（製造間接費）は 178,000 円が入るが、損益計算書では予定配賦額を記入するため、製造原価報告書において実際発生額を予定配賦額に修正するための下記の手続きが必要になる。

○製造間接費配賦差異が借方差異 ➡ 製造原価報告書では減算、損益計算書では加算

●製造間接費配賦差異が貸方差異 ➡ 製造原価報告書では加算、損益計算書では減算

したがって、製造間接費配賦差異に 2,000 円を記入し、材料費・労務費・経費（直接材料費・直接労務費・直接経費・製造間接費）の合計金額 1,171,000 円に加算することで当期製造費用を算定する。